



# チャイルドラインこおりやま通信

発行：チャイルドラインこおりやま

〒963-8022 福島県郡山市西ノ内1丁目25-2-2F こども地域生活支援センター内

HP：http://cl-koriyama.org/

TEL：070-5477-4114 FAX：024-983-9482 MAIL：info@cl-koriyama.org

2014  
Spring  
Vol.

# 4

## 「今伝えたいこと(仮)」上映会を開催しました

1月26日、郡山市中央図書館3階視聴覚ホールにて、相馬高校放送局制作「今伝えたいこと(仮)」上映会を開催しました。日曜日の夕方からという日時にもかかわらず、当日はこどもから大人まで、総勢108名の観客が集まりました。

放送局顧問の渡部先生の解説とともに、「今伝えたいこと(仮)」を含めた5つの作品が上映され、みなさん食い入るようにその映像を見、音に耳をかたむけ、時には涙を流してご覧になる方もいらっしゃいました。

上映後は、渡部先生と、放送局取材しているジャーナリストのすぎたカズトさん、現役高校生で「あいでみ」共同代表の小林恵菜さん、当団体の理事長大岡桂子でのトークセッションと、当団体についてのご紹介をさせていただきました。

トークセッションも、なかなか十分な時間は取れなかったのですが、「高校生の生の声をきくことができて良かった」、「先生の生徒への思いがきけて良かった」という反響がアンケートに寄せられました。

また、当団体の紹介も、多くの方に聞いていただけ、チャイルドラインの活動に興味を持たれた方が幅広い年齢層でいらっしゃったことは嬉しいことでした。

これからもこのようなイベントを開催することで、自分の中のイメージにとらわれることなく、こどもの生の声や姿に触れ、こどもたちの現状を知る機会をより多くの方と共有していけたらと思います。



上映会の様子



上映会チラシ

## 毎日新聞に掲載されました

3月12日付の毎日新聞にて、チャイルドラインが紹介されました。その記事は次のような内容でした。

震災から三年。NPO 法人チャイルドライン支援センターの取りまとめによると、福島県からの電話の発信は、他の被災県からの発信が減少したり、増加したりしているのに比べて、一貫して増加傾向で、その内容も「いじめ」に関するものが顕著だという結果が出ました。声をきいてほしい子どもたちが数多くいる現状に対して、チャイルドラインでは毎年、子どもたちに電話番号を記したカードの配布を行っています。しかし、回線や相談員が不足しているため、着信できた電話はその27~33%であり、「もっと周りのサポートが必要」という当団体事務局長の言葉で結んでいます。

この記事に関連して、当団体理事の前田昭より、これからチャイルドラインがになっていく役割について、一言申し上げたいと思います。



毎日新聞記事

## 「震災から三年。これからのチャイルドラインは」 【チャイルドラインこおりやま理事 前田昭】

東日本大震災後、発足準備を急ピッチで進め、正式発足から一年半を迎えたチャイルドライン(以下CL)こおりやまは、三段跳びのホップ・ステップ・ジャンプに例えるなら今は「ステップ」の位置です。これから「ジャンプ」に飛躍できるか、そのまま踏み止まるのか、この一年のCLの動きは重要です

CLにとって、子どもたちの声を聞く「受け手」の存在は、極めて重要です。彼らをどうまとめ、支えていくのかは、理事会のマネージメント力(経営力)が問われるかも知れません。組織が出来上がると硬化が始まります。だからいつも組織のあり様を考えることが不可欠です。

CLに大事なものは、その時々に必要な人材をいかに確保するかです。組織を動かす企業人、行政の知恵を知り尽くしたお役人、子どもたちに接している教育関係者、医者、弁護士、経理士など専門知識を持つプロも必要です。また、マネージメントと現場を預かる人たちは、それぞれ別の役割があります。人は皆、経験の違いから、異なる意見や行動様式を取ります。世代間のギャップもあるでしょう。CLは主義・主張で別れるものではなく「子ども」を中心にまとまる団体です。だから互いに異なる意見を尊重し合うことも大切です。

私が毎日新聞社学生新聞本部長の時、CL支援

センターが発足し、理事に加わりました。全国各地のCLは、発足の理念も性格も異なりますし、当初活発だったCLも、マネージメントや受け手のあり様で、活動が急速に落ち込むケースも見聞きました。

CLこおりやまの課題は、活動の間口を広げすぎないことです。財政基盤を確立し、足元(ステップ)を固める一年です。人に何を求めるかでなく「自分は何が出来るか」を自分自身に語りかける一年にしていきたいと私は考えています。CL支援センターは今後五年間の中期目標を提案しています。CLこおりやまがとるべき指針は何でしょうか。

受け手の声 —チャイルドラインの受け手の声をご紹介します—

受け手Ⅰ  
60代 女性

難しさも…  
けれど、子どもたちのために…

最初に自分の気持ちは横に置いて、と指導を受けましたが、どうして？それって悪いことだよ！解ってる？こうした方がいいよ！など、つつい自分の気持ちを優先させてしまいたくなる「受け手」初心者の私は、かかってくるどの電話にもきちんと受け止めて聴く、この基本姿勢って難しいなあと思感しています。昨日よりも今日、今日よりも明日「ありがとう」の言葉と元気な子供達の数が増えますように…

受け手Ⅱ  
50代

チャイルドラインをお手伝いできて

昨年6月からお手伝いをさせていただいております。私は日々感動と学びを得て充実しております。約束上、ここで具体的に話すことはできませんが、少しながら心の成長を感じています。毎回真剣に、一生懸命聴かせていただきたいと話に耳を傾けます。一生懸命な気持ちは、「かけ手」の子どもさんにも伝わっている気がしています。チャイルドラインに関わる時間は、私にとって充実した時間です。

子ども支援フォーラム(第五期受け手養成講座)を開催します

子ども支援について考えるフォーラムを5月24日(土)に開催します。臨床心理士としても活躍しながら、県内でさまざまな子ども支援に携わっておられる成井香苗さん、子育てに関する書籍も出しておられるジャーナリストの北村年子さん、チャイルドラインみやぎの代表理事である小林純子さんによる講演を行います。

私たち大人が、子どもたちのためにできること、一緒に考えてみませんか。

また、このフォーラムは、チャイルドラインの受け手になりたい人のための、受け手養成講座も兼ねていますので、受け手になりたいという方は、このフォーラムに必ずご参加下さいますようお願いいたします。なお、養成講座は、このフォーラムから始まって、6月から8月まで月1回の講座やワークショップを予定しています。

【フォーラムの詳細】

日時：5月24日(土) 13:00～17:30

場所：ミュージカルがくと館 大ホール

定員：200名

料金：無料

事前予約：不要

対象：福島の子どものために何か力になりたいと思っている方々



チラシ

会員募集中!! ～会員になってチャイルドラインこおりやまを応援してください～

支援会員(個人)：1口3,000円/年 支援会員(団体)：1口10,000円/年

1,000円の支援で、こども達にチャイルドラインのカードを250枚配ることができ、25分の電話が繋がります。

また、会員の皆様には、会報誌にて活動の様子をお伝えさせていただきます。

編集後記

街のあちらこちらでは、こいのぼりが見られるようになってきて、「もう5月だなあ」と感じる今日この頃ですが、この端午の節句、実は男の子の行事だけではないようです。

もとは田植えの前に女性たちだけで身を清める「五月忌み」という女性のための節句だったのですが、鎌倉時代に武士中心の世の中となっていたことにもなって、男の子の節句に変化していったようです。確かに5月は田植えの

季節でもありますものね。

いずれにしても今は、こどもの日ということで、女の子も男の子も、こどもみんなの幸せを願う日になりました。休日ですし、こどもたちが元気にのびのびと過ごす姿が見られる日であればいいなと思います。

そんなことを思いつつも、花より団子、こどもの日にかこつけて、かしわ餅やちまき…おいしいものに舌鼓をうとうと企んでいる、食いしん坊な私です。

(編集長 吉田 康子)

チャイルドラインこおりやま通信

第4号

発行：チャイルドラインこおりやま

発行者：大岡 桂子

住所：福島県郡山市西ノ内1-25-2-2F

こども地域生活支援センター内

TEL：070-5477-4114

FAX：024-983-9482

E-mail：info@cl-koriyama.org

URL：http://cl-koriyama.org/